

# 食堂充実 やる気アップ

## 社員同士の交流促進

### 採用狙い学生にもPR

#### 県内企業

食堂の新設や増設に取り組み県内企業が増えている。従業員に充実した食事時間を過ごしてもらい、コミュニケーションの促進や仕事に対するモチベーションの向上につなげることが狙いだ。人手不足が深刻化する中、食環境をインターンシップ（就業体験）で受け入れた学生らにPRし、採用活動につなげたいとする企業もある。

（経済部・熊谷浩三、池亀慶輔）

工作機械メーカーのコマツNTCは1月、福野工場（南砺市野尻・福野）内に食堂や会議室、ロッカー室を備えた厚生棟を新築し

た。6人掛けのテーブル席に加え、従業員の要望を受けて窓際に1人掛けのカウンター席を配置。屋外のピクトープを眺めながら食事

を取れるようになってい

る。工場敷地内にはもう一つ食堂があるが、近年は生産拠点の集約化で従業員が増え、混雑が目立っていた。

伊藤祐一執行役員総務部長は「食事を楽しみにしている社員が多い。食事の満足度が働く意欲につながる」と説明する。今回の増設によって混雑を緩和し、食環境の充実を図った。

今後、インターンシップで受け入れる学生の工場見学ルートに厚生棟を組み込み、食堂を案内するという働きやすい職場環境のアピールに活用する。

日医工は昨年4月、富山本社（富山市総曲輪）に約100席を備える食堂を新設した。福利厚生の一環で社員同士のコミュニケーションを深める狙いがある。城址大通り沿いにあり、春



新築の厚生棟に設けた食堂で昼食を取る従業員＝コマツNTC福野工場

に桜、冬には雪化粧の富山城址公園といった眺めを楽しめる。

社員を対象にアンケートを実施して要望に応えるようにしており、飽きが来ないメニューを工夫している。定食は、和洋の2種や麺類、小鉢、カレー、ミニ丼、サラダなど多くの品ぞろえがある。

イトインスペースを新設するのは、構造物検査・診断のアイベック（同市上野新町）。11月末に同市中田に移転新築する本社社屋に導入する。従業員が持参した弁当や軽食を食べる場所で、テーブルやカウンター席を設ける。電子レンジやトースターを置いて自由に利用してもらう。

現社屋には食事専用の部屋がなく、昼休憩になると従業員は各自の机で弁当を食べることが多かった。東出悦子社長は「リラックスできる場所を作りたいと思った。みんなが一つの場所に集まることで、コミュニケーションが取りやすくなる」と交流促進に期待している。

